



[右ページ写真]アクセントカラーに鮮やかな朱色を用いたリビングルーム。他の壁はベージュで統一されているので、穏やかな印象の中にアクセント壁とソファの朱色が映える空間となっています。[写真1]自然の石をアクセントに用いた玄関ホール。色以外にも自然素材を用いることで視線をひき、脳に刺激を与えることが可能です。玄関ホールはONからOFFへの切り替えが特に重要な空間です。[写真2]デスクの前面が鮮やかな水色で配色されたオフィス空間。青系統の色は脳の鎮静化を促し、集中力を高め作業効率を高めます。[写真3]紫色、特に薄紫色(ラベンダー)は安眠に効果があるとされています。枕側の壁をアクセントにすると、頭上の気が落ち着き、効果が高まります。[写真4]歯科クリニックの廊下。診察室ごとに色を変えることで患者さんの不安感などを緩和し、落ち着いて治療を受けられる空間となっています。[写真5]和紙のような質感とオレンジ色が印象的な、リビングルームのアクセントカラー。ビビットな色を用いる場合は、ソファのクッションやカーテンの柄などと色を合わせることで、空間にまとまりが生まれます。



Feng-Shui Gallery

special edition vol.43

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『アクセントカラーの使い方』



お部屋ごとに壁の色を変えることによって、脳に刺激を与えます。その空間の目的によって、適切な色をアクセントにすることで気持ちの切り替えを可能にしてくれます。

リビング = 寛ぎ、寝室 = 安眠、ダイニング = 団欒、といったように空間にはそれぞれ使用目的によって、必要となる要素が異なります。その目的にあった空間にする為に、アクセントカラーを用いるのです。

壁全面に使用するには濃い色でも、1面にだけ用いることで空間が劇的に変化します。